

# 前立腺肥大症 新しい手術法(PVP)の特徴

日本国内で2番目に導入した新しいレーザー前立腺治療

PVPがバージョンアップしてより  
強力になりました。

そして、ついに保険適用になり  
ました。

- 80W→120Wへ出力増加
- 尿道カテーテル留置期間は1晩のみ
- 痛み、出血が少ない
- TURPと同等の治療効果



## 画期的手術法 PVPとは

～日帰り可能な前立腺レーザー蒸散術～

長久保病院では、国内で二番目に米国レーザースコープ社のKTPレーザーを新しく導入、前立腺肥大症に対するPVP (Photoselective vaporization of the Prostate) 光選択性前立腺蒸散術の手術を始めました。平成23年8月現在までに600例以上の治療経験があります。

KTPレーザーは、今までとはまったく違った性質を持つ内視鏡手術で、血液中の赤血球に含まれるヘモグロビンを熱することで組織を蒸散させるという優れた利点があります。患者さんへの負担が最小限度ですむ画期的な手術法として注目されています。今回はその出力が120Wとパワーアップされ、さらに治療効果がよくなりました。

欧米、韓国などではすでに5年以上の治療実績があり、そのすぐれた効果が実証されています。

## PVPの特徴について

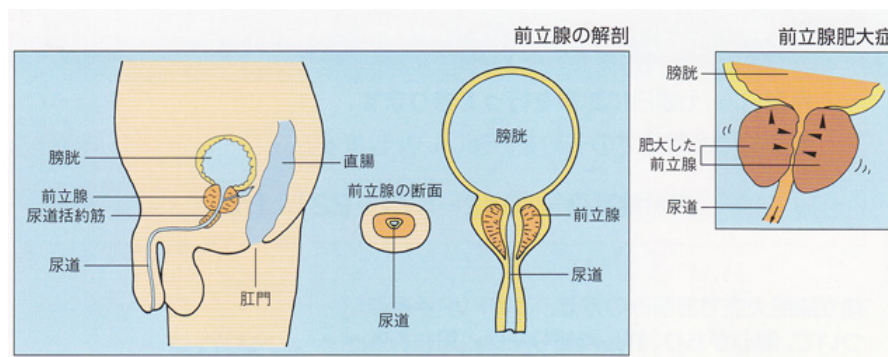
- 手術中の合併症や出血が少なく、大きな前立腺でも輸血は不要です。手術後の腫れ・痛みがほとんどないため、手術直後から良好な排尿が期待できます。
- 心臓、脳などに持病をお持ちの方、血液をサラサラにする薬をのまれている方にも行うことができます。
- 手術翌日に尿道カテーテルを抜去できます。(欧米では30%の方がカテーテル不要とのデータがあります)
- 手術を受けても男性機能への影響(いわゆるインポテンツ)はほとんどありません。
- PVPは前立腺肥大症に対する手術です。前立腺がんの疑いの強い方、あるいは前立腺がんと診断された方はお受けになることができません。

# 前立腺肥大症 新しい手術法(PVP)の特徴

## 前立腺について

前立腺は膀胱の真下と尿道との間にあるクルミ大の臓器です。前立腺は一般に熟年期になると大きくなりますが、原因はそれだけではありません。しかし、男性の性機能との関係が有力視されています。

男性機能が低下してくる年代になると次第に前立腺が肥大し、肥大した前立腺が尿道を圧迫し、その結果オシッコが出にくくなるのが前立腺肥大症です。  
(図参照)



## 前立腺肥大症の治療について

前立腺肥大症の治療には、大きくわけて内服療法と手術療法があります。

内服療法は高血圧症と同様に長期に服用し続ける必要があり、年月が経つと効果がなくなることもあります。

手術療法は内視鏡の先についた電気メスで前立腺肥大部を削り取る治療法(TURP)が、現在最も一般的な手術法です。入院期間は7日～10日間程度必要です。TURPをさらに低侵襲にしたものがPVPです。PVPは3泊4日で行います。日帰り手術も可能ですので詳しくは医師にご相談下さい。

## PVPとTURPの比較表

|           | PVP           | TURP  |
|-----------|---------------|-------|
| 痛み        | 少             | 比較的 多 |
| 出血        | 少             | //    |
| カテーテル留置期間 | 1晩<br>不要な場合あり | 3日間   |
| 入院        | 3泊4日          | 7日間位  |
| 保険適応      | あり            | あり    |

※ この資料は「長久保病院」様の許可を受け、「岩澤クリニック」で作成しました。詳しくはお問い合わせください。  
岩澤クリニック: 札幌市札幌市中央区南1条西16丁目 レーベンビル2F、電話: 011-613-6000